

銘柄分析レポート：いぶし銀ファンド（2014年版）

1 はじめに

私が勝手に「いぶし銀ファンド」と呼んでいる株式投信があります。過去5年間のパフォーマンスにおいては、TOPIXやJASDAQ指数に大差をつけました（下のチャート）。

ファンドマネジャー氏は、6月10日付の運用報告書にて、次のように述べています。

期末における株価上昇の原動力となったのは、新興市場を中心とするインターネット関連銘柄でした。しかし、個別の銘柄を見ると、必ずしも中長期的な利益拡大につながると考えにくい材料により上昇しているものが多く存在します。一部個人投資家の回転売買が株価上昇の主因と見られ、相場の持続性には疑問があります。

（中略）今後も割安株中心のポートフォリオを維持していく方針です。期待先行で買い上げられる銘柄が出てきた場合は、遅滞なく利益確定を行い、反落リスクを回避します。

機関投資家の場合、ベンチマークに負けたくない一心で、強い銘柄に“目をつぶって”ついていくケースもあると聞いています。

そんな中、投資ポリシーを曲げないのは立派です。

今回の銘柄分析レポートでは、久しぶりに、この「いぶし銀ファンド」の投資銘柄について取り上げます。

★いぶし銀ファンドのパフォーマンス

